

## 第2次環境基本計画後期計画の重点プロジェクトの進捗について

### 1) 環境課題への対応

#### ① 温暖化対策 みんなで見える化

#### ア. LED照明器具助成制度

##### 【現在までの取組状況】

	申請数 (件)	助成額 (円)	取 替 台 数 (台)	年間電力削減量 (kwh) ※2	年間CO <sub>2</sub> 削減量 (kg-CO <sub>2</sub> ) ※3
工事費 助成※1	55 (87)	2,008,000 (2,182,000)	343 (282)	27,349 (27,330)	13,374 (13,365)
購入費 助成	131 (105)	992,000 (818,000)	235 (173)	27,679 (20,930)	13,535 (10,235)
合計	186 (192)	3,000,000 (3,000,000)	578 (455)	55,028 (48,260)	26,909 (23,600)

上段：令和2年度※4      下段：令和元年度

※1 工事費助成内訳：専有部分40件（前年度82件） 共用部分15件（前年度5件）

※2 【蛍光灯(W)からLED(W)照明に取り替えた場合の消費電力の差分】×【点灯時間(h)】×365日

※3 【年間電力削減量(kwh)】×\*0.489(kg-CO<sub>2</sub>/kWh) \*CO<sub>2</sub> 排出係数

※4 令和2年度の数値は、実績報告書が全て提出されていないため、未確定（見込値）

##### 【取組の評価、効果】

- ・今年度の申請件数（工事費助成・購入費助成）は186件（前年度192件）で、杉の木換算（1年間に杉の木がCO<sub>2</sub>を吸収する量）で前年度比約14%増の約1,922本（前年度約1,686本）のCO<sub>2</sub>削減を達成見込
- ・工事費助成の申請件数は前年度よりも大幅に減ったが、共用部分の申請が前年度の3倍に増えた結果、年間CO<sub>2</sub>削減量は前年度とほぼ変わらない結果となった（共用部分では多くの照明器具取替が行われるため）。
- ・購入費助成の申請件数は、前年度比25%増となり、年間CO<sub>2</sub>削減量が前年度比32%増となった。
- ・申請書のアンケート項目に「COOL CHOICE」への賛同登録を選択項目に入れたことで、107名（見込）に賛同登録していただき、「COOL CHOICE」運動の普及啓発に貢献できた。

【今後の方向性】

- ・今年度の事業結果の実績を確定次第、ホームページで公表予定
- ・令和3年度も実施予定の本事業について、予算がすぐに無くならないための方法など、今年度までの改善点を踏まえた制度の見直しを行う。

イ. 環境家計簿

【現在までの取組状況】

- ・市内全小学校 18 校の取組結果の集計を終え、二酸化炭素排出量の削減効果（杉の木換算）等の取組結果を各学校に返却し、フィードバックした。
- ・学校別の二酸化炭素排出量の削減効果（杉の木換算）などの今年度の取組結果をHP等で公開した。

【取組の評価、効果】

- ・学校別の参加率や一人当たりCO<sub>2</sub>削減量、児童による取組の感想コメントなどを各学校に報告し、児童の省エネの取組が温室効果ガスの排出量削減に繋がることを見える化して伝えたことで、児童及びその家族の日常の省エネの取組への意識付けを行うことができた。また、今回の取組がSDGs やCOOL CHOICE の具体的な実践であることを児童に伝えることができた。

【今後の方向性】

- ・令和3年度も夏休み時期に市内全 18 校の小学5年生を対象に環境家計簿を実施予定

ウ. 小学校での出前授業（碧山小学校5年生）

【現在までの取組状況】

- ・碧山小学校5年生の担任の先生より、総合学習の時間に地球温暖化に関する市の取組についての授業の実施依頼を受けたため、12月10日（木）の2～4時間目に、5年生の3クラス（合計96名）に出前授業を実施した。
- ・環境保全課職員2名で、地球温暖化に関する一般的な知識や、世界及び日本の対策、西東京市の取組（クールチョイスの普及啓発など）の説明を行った後、環境省制作DVD「2100年未来の天気予報」の一部を上映した。
- ・出前授業の様子についてホームページに掲載し、取組について広く周知した。

【取組の評価、効果】

- ・授業やDVDの上映を通して、将来を担う児童達に、年々深刻さを増す地球温暖化への危機感を持ってもらい、一人ひとりができる省エネなどの温暖化対策の重要性を直接伝えることができた。

【今後の方向性】

- ・教育委員会と連携し、碧山小学校やその他の小中学校での出前授業など、児童・生徒に向けた地球温暖化の普及啓発を積極的に行う。

## エ. 第3回「みんなでいっしょに自然の電気(通称：みい電)」(東京都事業)の周知

### 【現在までの取組状況】

- ・12月15日号市報、市ホームページ、市Twitter及び市内掲示板等で周知
- ・11月20日の環境フェスティバルにおいてパネル掲示により周知した他、田無庁舎2階総合受付、エコプラザ西東京ロビーでもパネル掲示による周知を行った。
- ・東京都と連携し、西東京市からのメッセージを掲載したチラシを市内小中学校、図書館、市内の一部地域(芝久保町・保谷町全世帯)等に配布

### 【取組の評価、効果】

- ・再生可能エネルギー由来の、環境にも家計にもやさしい電力への切り替えに関する情報を、市民や事業者へ普及啓発できた。

### 【今後の方向性】

- ・第4回「みい電」(今後東京都などが実施予定)の周知
- ・第4回「みい電」のチラシ(西東京市からのメッセージを掲載)を市内の他の地域に配布予定
- ・市民や事業者に対し、その他の再生可能エネルギー等に関する有益な情報をタイムリーに周知する。

## ②河川清掃でコベネフィット

### 保谷高校との連携事業

#### 【現在までの取組状況】

- ・10月に保谷高校と協働して行った石神井川の河川清掃の様子をホームページに掲載
- ・保谷高校国際交流部の活動成果の記事をエコ羅針盤3月号に掲載するため、編集方針について生徒と打合せを行い、生徒が作成した記事の校正を実施

#### 【取組の評価、効果】

- ・河川清掃活動の様子をホームページへ掲載したことにより、石神井川へのごみの不法投棄やポイ捨てが多い実態を伝えるとともに、保谷高校との連携事業による清掃活動の成果を広く市民に向けて周知し、清掃活動への参加を呼びかけることができた。

#### 【今後の方向性】

- ・保谷高校の生徒と3月頃に石神井川の清掃活動を行う予定
- ・エコ羅針盤3月号に保谷高校国際交流部の作成した記事を掲載予定

## ③マイバッグでお買い物

### エコバックドライブにより回収したエコバッグの配布

#### 【現在までの取組状況】

- ・全職員から不要となったエコバッグを集めて必要とする人に届ける取組(エコバッグド

ライブ)により回収したエコバッグを、環境フェスティバルにおいて来場者に配布した。

【取組の評価、効果】

- ・全てのエコバックを来場者に配布することで、エコバッグの有効利用ができた。

【今後の方向性】

- ・小売店等でのレジ袋の使用抑制に向け、市報やホームページ等を通じ、エコバッグの普及に向けた更なる啓発を行う。

#### ④みんなで外来種駆除

##### ビオトープ改造大作戦(けやき小学校4年1組)

【現在までの取組状況】

けやき小学校4年1組の担任の先生より、小学校の敷地内にあって手つかずの状態であった池をビオトープとして改造することを総合学習の授業で行うため、環境保全課に協力依頼があった。小学校と環境保全課の協働事業として、ビオトープの管理に詳しいNPO法人birthの職員(レンジャー)によるワークショップ形式の講座とかいぼり作業を行った。

1日目:11月9日(月)1~4時間目 ワークショップ講座

- ・レンジャーと池の見学・池の生き物(在来種と外来種の区別など)についての説明
- ・児童による現状の池の良い点、悪い点の洗い出し
- ・良い点を残して悪い点を改善するため、後日かいぼり作業を実施することになった。

2日目:12月11日(金)1~4時間目 かいぼり作業

- ・池の清掃(落ち葉やヘドロなどの除去、水の入替えなど)
- ・池の生き物を在来種と外来種に分別→在来種のみを保護し、池に戻す。

【取組の評価、効果】

- ・池の水を綺麗にし、在来種のみを池に戻すことで、ビオトープ再生の足掛かりを作った。
- ・今回の取組を通じ、児童が身近な自然環境や生物多様性について関心を持ち、多くの関係者の協力を得て取組を達成したことによる地域の方への感謝と愛着を持つことに繋がった。

【今後の方向性】

- ・今回の取組を行った4年1組だけでなく、学校や地域全体でビオトープの維持管理を長期にわたって行う仕組みを構築する。
- ・けやき小学校の今回の取組を、校長会などを通じて他の学校へ波及させ、他の学校においても児童や地域によるビオトープ再生などの自然環境保護の取組を広げる。

#### ⑤まちなかの自然に学ぶ

##### 市民団体との連携事業(ムラサキソウの栽培・活用)

【現在までの取組状況】

- ・エコプラザ西東京で栽培したムラサキソウの紫根の色素含有の確認テストを実施

【取組の評価、効果】

- ・確認テストの結果、紫根にシニコンが含まれていることが判明  
→初年度に栽培したムラサキソウから、「紫根染」の原料となる紫根の収穫ができた。

【今後の方向性】

- ・令和3年3月中に新たにムラサキソウの種撒き⇒増産を図る。
- ・ムラサキソウについて、ホームページ等で広く市民に周知啓発する。
- ・栽培したムラサキソウの紫根を活用し、来年度中に「紫根染体験講座」の開催を目指す。
- ・市民が地域の環境について学び、地域についての関心を高めるため、自然観察会などの体験型講座を開催する。

## 2)活動主体の支援・育成

### ①面的情報発信、②点的信息発信

【現在までの取組】

- ・令和2年11月18日に開催されたエコプラザ西東京の利用者懇談会において、市のホームページにエコプラザ西東京登録団体のホームページへのリンクを設定して団体の活動内容の紹介を行う旨を伝え、各団体からホームページのアドレスを募集した。

【取組みの評価、効果】

- ・ホームページを持っているいくつかの団体からアドレスの提供を受け、市のホームページにリンクを設定することの了承を得た。

【今後の方向性】

- ・市のホームページにエコプラザ西東京の登録団体のリンクを設定して活動内容を紹介し、団体の活動内容等を広く情報発信するなど、市民団体が行うイベントや活動内容について、ホームページでの情報発信を拡充し、活動への参加を呼びかける。
- ・エコプラザ西東京の環境学習コーナーにおける展示等を更に充実させ、団体の活動内容の紹介をより強化する。

### ③環境づくり

【現在までの取組】

- ・新型コロナウイルスの影響により、エコプラザ西東京などの公共施設での不特定多数の集まるイベントは現在までのところ開催不可となっている。

【今後の方向性】

- ・オンライン形式によるイベントなど、新しい生活様式の下での各団体のイベント等の開催に向けた環境づくりについて検討する。またコロナ禍が落ち着き、各団体が対面でのイベントを再開する際は、エコプラザ西東京などの公共施設を利用して各団体がイベントを安全に開催し、市民が安心して参加できるよう、コロナ対策を含めた施設を利用しやすい環境づくりを行う。